

平成26年第3回奈良県こども・子育て支援推進会議

平成26年11月20日(木)

14:00～15:45

県文化会館集会室A・B

- 日 時：平成26年11月20日(木) 14:00～15:45
- 場 所：奈良県文化会館集会室A・B
- 議 事：(仮称)「奈良県少子化対策プラン」の策定について
- 出席委員：別添出席者名簿のとおり
- 議事概要：

〈開会あいさつ〉

【知事】

- ・少子化対策が国の大きなテーマとなってきたが、子育ても応援しなければならない。会議の中身も拡大して、少子化対策の一環としての子ども・子育てに関するテーマも取り上げさせていただきたいので、本日もよろしくお願ひしたい。

〈定足数報告〉

委員12人中7人が出席のため、過半数が出席

〈議事〉

(仮称)「奈良県少子化対策プラン」の策定について

○事務局からの資料説明

- ・資料1 (仮称)「奈良県少子化対策プラン」の策定について
- ・資料2 幼児期の学校教育・保育及び地域の子育て支援の推進について
- ・参考資料 子ども・子育てに関する主な項目ごとの課題及び平成26年度施策
(H26.6.10開催 平成26年度第1回奈良県子ども・子育て支援推進会議 提出資料)

【吉田委員】

- ・香芝市の高い合計特殊出生率を継承しながら、まちの魅力をできるだけ上げていくことに全力を注いでいきたい。鉄道や幹線道路など、非常に良いアクセス条件が整い、「地の利」が39市町村の中でも上位であり、168号線の拡幅で、さらに良くなっていると思う。
- ・子育ての分野については、「働きやすさ」を常に念頭に置き、学童保育や保育に重点を置いた施策を実施している。いかにして働きやすいまちづくりをするかということ。
香芝市は住みよい街だが、働く場所がほとんど無いので、飲食店を含めたいろいろな商業施設の誘致にこの何年か力を入れてきた。また、タクシーを利用したデマンド交通もスタートし、住みよいまちづくりを推進している。
- ・本日の資料のデータの中で、生駒市や王寺町など、主要な鉄道駅が香芝市と同様の状態にもかかわらず、出生率が香芝市と同様の状態ではないということもある。必ずしも、交通アクセスの好条件が出生率の上昇につながるとは言いきれないと思う。

【栗木委員】

- ・少子化対策としては、いろいろな面での支援が必要だが、子どもを保育所に預けると、どうしても保育料の負担がかかるので、保護者の負担を軽減することも大切。国の制度では、現在、第2子の保育料の半額を、第3子は全額を国が負担している。この第2子の半額を何とかもう少し、県・市町村で負担できないか。この辺りの改善を図ることで、今後、子どもの数の増加が見込めるのではないか。

【谷口委員】

- ・市町村によってこれだけ出生率に差があるのかと感じたが、結婚されない方が、各市町村にどれくらいの割合でいるのか。例えば、幼稚園に子どもが通っている家庭では、どれくらいの子どもがいて、保育所に子どもが通っている家庭ではどうかなど、どこが本当に一番大切な問題点なのかということがはっきりするような統計の取り方というのもおもしろいのではないか。
- ・資料1 1頁の「基本目標Ⅲ 子どもの健やかな育ちの実現」の4番目、放課後児童対策の拡充の部分のいわゆる「小1の壁」について、よくわからなかったので教えていただきたい。

【辻 子育て支援課長】

- ・「小1の壁」とは、子どもが保育所に通っていた時は、18時や19時まで預けることができたが、小学校に通うようになると、そのような時間までは見てもらえなくなるので、働いている保護者は早く帰宅しないといけなくなるということ。
- ・そのために、放課後児童クラブを、拡充していく必要がある。一方、全ての子どもを対象とする放課後子ども教室という事業もあるので、この2つの事業を一体的に進めていく計画。
- ・放課後児童クラブの運営について、もっと小学校の先生の協力も得ながら、進めていくことを検討していきたい。

【末松委員】

- ・基本理念についての考え方の説明の二つ目のところで、婚姻率や子どもの数等の目標値を設定しない理由として「結婚し子どもを生み育てることは、個人の意思に基づくものであるため」ということをきちんと打ち出していることは、非常に良いと思う。
- ・お母さんや、お母さんになる人を応援していくことは大切だが、お母さんにはならないがいろいろなことで世の中の役に立ちたいと思っている人は多いと思うので、そのような人たちを上手に発掘して、応援してもらおうという思いが、本日の資料に込められていると感じた。
- ・もう一つ、基本目標Ⅱにあるように、若者たちがライフデザインを形成していくために、具体的にどのような支援ができるのかがとても大事。子どもたちの5年後、10年後、20年後を考えた場合に、明るい具体的なイメージを持てるよう、私たちにできることをしていかなければならない。
- ・児童養護施設や乳児院は、一般の人にとっては、何かマイナスのイメージがあるのではないか。この推進会議に関わることで、社会的養護のあり方や使命、役割、そういうものをきっちりと再認識させてもらえる良いきっかけになった。

私たち自身が、お母さんやお父さん、そして子育てに関わる全ての人たちを応援し、支えていくという役割をもっと自覚して実践していくことも必要だと強く思った。

- ・また、市町村が、それぞれ自分のまちの魅力をもっとアピールし、自分たちの住んでいる地域の良いイメージを創り上げていくことで、若い世代がここで一生暮らしていきたいと思えるようになれ

ば、きっと良いサイクルができていくのではないかと、思う。

【知事】

- ・本推進会議では、少子化対策、子育て支援、もうひとつは、女性のワーク・ライフ・バランスという課題がある。また、ひとり親家庭の就業支援や親と離れている子どもを育てるというテーマも視野に入れて、どのようにするかを考えることが必要。
- ・地域の出生率の違いについて、少し広い地域で、滋賀県と奈良県で分析したが、人口はほぼ同じだが、出生率はかなり違う。この背景としては、滋賀県は若者の正規雇用率が高く、所得も高い。若者が職を得やすい状況であるということがわかった。少子化対策としては、若者に職を与えると出生率が上がる傾向がある。
- ・奈良県の市町村別分析に当てはめると、若者が仕事で大阪に通いやすい地域の方が、有配偶になりやすく、また、社会的な人口増があると思う。もう一つは、若者の住宅環境として必要なものは、手頃な価格の住宅ではないか。しかし、そのような地域でも、次の世代になると、子どもはみんなどこかへ行ってしまう。住宅環境と子育てしやすい環境を整備することが必要。
- ・若者が奈良で仕事に就けないと、出生率も上がらないし、その次の世代の定着率も低くなるので、経済対策が必要ということが見えてくる。少子化対策としての経済対策も必要だということになる。したがって、住みやすく、働きやすい、ということを奈良県の目標にしなければいけない。地域を広く見て、それをどのようにしていけばいいか、子育てももちろん大事なことだが、広く隣接の分野も見て、対策を考えなければならない。
- ・子育て支援の事業について、家庭の事情が異なることに対して、異なる対応が上手くできるかどうか。例えば所得が違う世帯に同じ対応をすることがいいのか、困った人には厚く、困っていない人には薄くといった対応をするのか。社会全体を保つために、それぞれの家庭に上手くサービスが行き届くような制度ができるのかどうか。
- ・フランスでは、子どもの給食費は、所得の低い人はほとんど無料で、高い人からは高額を徴収する。日本はあまり所得によって給付額に差をつける風習が無いし、皆平等に扱うのが良いという傾向だが、現実には公営住宅やURなどではやはり安く住まいを提供している。
- ・子育て支援においては、保育料について、金額に大きな差をつけることができるのか。国の補助は、あまり差をつけていないような気がする。奈良県でできることはしてもよいし、奈良県の子育て支援事業が良くなったと言われるようになれば良い。

【福島委員】

- ・プランの名称は、3案ともあまりよくない。主婦や一般の人がこの名称を見て、興味を持つかどうか。この中では、案3「奈良こどもすくすく・いきいき子育てプラン」がよいと思う。
- ・推進会議を重ねる毎に、プランの内容についてよいと思えるところがどんどん増えてきている。個人的なことだが、4月から子どもが進学するので就職した。働き始めたところで、ワーク・ライフ・バランスの大切さを実感している。このワーク・ライフ・バランスについても、プラン案にきちんと書かれている。

【井上委員】

- ・プランの名称について、案2の「なら結婚応援・こども健やかプラン」は独身者には、プレッシャーを感じるので、「結婚応援」を前に出すことはどうかと思う。この3つの案の中では、案3「奈

良こどもすくすく・いきいき子育てプラン」が良いと思う。

- ・女性のキャリア形成について、私が働いている会社でも、とても力を入れており、女性が働きやすいよう、育児支援の制度はかなり整っている。しかし、女性管理職の育成というところは、少し話が変わってくる。会社では多くの女性が働いているが、管理職はとても人数が少ない。

管理職を養成するための研修もいろいろ用意もされており、女性自身も管理職を目指したいという思いもあるが、経営陣に女性管理職を養成したいという意識がまだまだ低いと感じている。

- ・年配の人の間では、なかなかワーク・ライフ・バランスという概念が理解されず、長時間労働がなかなか解消されない。男性も、「よく働く人がよく仕事をする人として認められる」という感覚があり、女性管理職が同じように働けるのかというと、子どもを持ちたいという思いもあり、両立は難しいと思う。この点は、県からも企業のトップの方々に対して、働きかけていただきたい。

【川端委員】

- ・香芝市が10数年をかけて、住みやすいまちにされているのは素晴らしいと思う。他にも、斑鳩町や田原本町がどのような施策を実施した結果、出生率が高くなったのかを聞きたい。
- ・私が住んでいる大和郡山市は、何十年後には無くなるかもしれないと言われているが、10分程離れているがJRと近鉄の駅があり、イオンもできており、決して住みにくいまちとは思わない。出生率がそれほど改善しない原因は何なのか、そういうところを聞かせていただきたい。
- ・プランの名称については、案3の「奈良こどもすくすく・いきいき子育てプラン」が、一番やわらかく優しい表現なので、良いと思う。
- ・資料9頁のプランの基本的な考え方の中の「①子どもの最善の利益の尊重」という表現が、少し難しいので、説明していただきたい。
- ・働きやすい職場について、石川県の加賀屋には7階建ての母子寮があり、多くの母子家庭の方が安心して働くことができ、また、お客様サービスとコミュニケーション能力が日本一という表彰を受けている。そのような企業を作っていくことなどは、企業としても考えていかなければならない。

【吉田委員】

- ・香芝市は小さなまちであり、移動のアクセスが非常に良く、インフラが他の地域とは徹底的に違う。通常、20分以内にいずれかの駅に着く。非常に便利だが、来るべき将来を見据えて、早めに手を打って、既にデマンド交通をスタートさせている。

高齢者の方は、車が無くても、デマンド交通を利用することによって、市内であれば、自分自ら買い物をしたり、ヘアースタイルに行ったり、話をしに行ったりすることができる。このように、香芝市は、近くに出かけて行きやすいコンパクトシティになっていると思っている。

【川端委員】

- ・デマンド交通とは、どのようなものか。

【吉田委員】

- ・デマンド交通とは、タクシー業界と連携した制度で、電話をすれば、午前9時から4時半までの時間帯、平日であれば200円で、香芝市内の銀行や病院や駅など主要ポイントに行けるサービス。
- ・タクシーの利用者がそれほど多くない時間帯に利用してもらうので、タクシー業界にも非常に喜んでいただいております、市民の方にも喜んでいただいております。

- ・まちづくりは、市の大きさや特徴を活かして行っていくことが大切だと思う。障害を持っている方や子育てしている方など、全ての方にとって住みよいまちにしなければならないと思っている。

【辻課長】

- ・「子どもの最善の利益の尊重」については、保護者を含む大人の利益や都合を優先するのではなく、子どもの利益を優先させるという意味。保護者が働きやすいようにという考え方ではなく、子どもを大切に育むという視点に立ち、子どものための施策を展開していくという考え方。

【谷口委員】

- ・この言葉は、子ども・子育て支援新制度の国の基本指針にも記載されている言葉で、子ども・子育て支援新制度の理念的なものであると捉えている。また、すべての子ども・子育て家庭に対する支援という考え方も、理念の中に入っている。

【栗木委員】

- ・同じ意見。国の基本指針の中にも、理念を表す言葉として記載されている。

【知事】

- ・プランの名称については、案3の「奈良こどもすくすく・いきいき子育てプラン」に賛成が多い。名称に込める思いでは、子どもがすくすく、保護者はいきいきというようなことを書いているが、子どもがすくすく・いきいきというように読んでしまうと感じた。
- ・香芝市、田原本町、斑鳩町で合計特殊出生率が上がっていることをもう少し分析すれば、おもしろい結果が出るのではないか。背景に人口流入があるのか、元々住んでいる人にとって住みやすい地域なのか。
- ・子育て環境では、保育所の量や学校への通学のしやすさなどが影響するのか。職への近接性と子育て環境の2つが必要ではないか。大阪に通勤しやすいという職への近接性があり、子どもを育てやすい環境で住宅の価格が手頃であれば、子どもを生む世代が集まりやすい。
子どもを生む世代が集まって出生率が上がったのか、元も住んでおられる方の出生率が上がったのかはわからないが、他の地域でも再分析をすると、何が出生率の上昇に効果があったのかがわかると思う。
- ・女性のキャリアアップは、子どもの有無に関わらず大切。出産・子育て後も、キャリアが上がるような仕組みをどのようにすればよいか。出産・子育てによるブランクによって、会社の中で負うハンディをどのように回復するのか、ということの特化して、研究が進めばよい。
出産・子育てを経た女性に、どのようにして管理職や指導的立場の仕事に就いてもらうのかをもう少し考えてはどうか。
- ・出産後にうつになる女性も最近増えており、何年もうつで休業すると、再就職しにくくなる。社内のキャリアパスと再就職の場合のキャリア継続など、離職した後の再就職をどのようにすればよいか。M字カーブの右肩の手立てをどのようにするのが大きな課題。会社を辞めても再就職しやすい地域は、女性にとって良い地域になるのではないか。
- ・結婚・出産と再就職の間に離婚する場合がある。そのような場合、再就職だけではなく、ひとり親としての困難を背負う。一般論だけではなく、そのような方の支援策を考えたい。例えば住居と会社が一体になった場所を作って、母子家庭の母親が働く運送会社を作るなど。

- ・そのように家庭の事情に合わせて、再就職の支援をすると、結婚・出産がしやすくなり、仕事と子育ての二者択一に直面するリスクが減るのではないか。子育てを容易にするためにも、女性の再就職・キャリアパス、女性のワーク・ライフ・バランスをどうするのかという話を発展させないと、なかなか子育て環境が良くなるし、子どもを作らなくても女性にとっての働く環境が良くなる
ことが望ましい。女性ライフの環境が良くなるということは、さらに上位の大事な話と認識して理念体系を構築してもらいたい。

【末松委員】

- ・プランの名称について、案3「奈良こどもすくすく・いきいき子育てプラン」の「すくすく」というのは、願いがこもっている言葉ですごく良い。親も、我々大人もみんなで関わり、子どもたちにすくすく育てほしい。とても響きの良い言葉。
この「すくすく」「いきいき」という反復する言葉は耳触りがよく、「いきいき」というのはお母さんたちの笑顔が浮かんでくる。あまり意味はないが、奈良とこどもの順序を逆にしてはどうか。

【知事】

- ・子ども・子育て支援新制度に関する資料2の2頁の保育の考え方について、需給を計る地域は、きめ細かく見てもらうことが望ましい。市町村の中の区域を県が設定するわけにはいかないの、県としては市町村から出てきた計画を受け取りますという趣旨だが、例えば、奈良市では西と東では全く状況が違う。
需要に応じて、市町村が施設を配置していれば良いが、それをどのように検証するのかは、きめ細やかなデータが必要。各区域はどれくらいの広さなのか、その中で子ども数に照らして保育所の供給があるというようなことを市町村から言ってもらわないといけない。
市町村できめ細かく区域を考え、需給を見ていただき、その合計の市町村レベルでも需給バランスが取れていて、なおかつ区域間の偏差もあまりないという、この2つの内容のものをいただくようにはできないか。

【辻 課長】

市町村においても、区域を設定することになっている。例えば、小学校区域、中学校区域のように、市町村の中で分割して決めることも可能。県全体をどのような区域設定にするかは、今後、市町村と打ち合わせをしたい。

【知事】

- ・認可の権限は県にあるから、何かの事情で保育所が余っているところに認可をすることはできないという考えを持つためには、なぜこのA地域ではなくB地域で保育所を設置しないのかと、こちらで判断する道具がなくてはならない。
- ・そうすると、その区域は、小学校区か、小学校区よりも少し小さな範囲になるのでは。また、保育所は自宅の近くなのか、職場の近くなのかということもあり、事業所内保育施設については、どのように需給を見るのかもテクニックが必要。
- ・市町村の中に、大勢が勤めに来られる工場がある保育所は、夜間人口で需要を計っても仕方がない。事業所内保育施設や駅にある保育所については、どのように需給を見るのか。きめ細やかな需給調整があまり可能ではない気がするので、保育に関するご家庭の需要に照らして、保育所が設置でき

るようにするにはどうすればよいか、県の方針がきちんと需給に合うように工夫をお願いしたい。

- こうして議論して意見を聞き、また資料を作るという繰り返しで、最初からきちんと考えがあって順番に案を出しているのではなく、その都度考えを進めて出しているので、思うようにいっているかどうかはわからないが、今日のようなご意見を賜って、子育て支援、少子化対策、女性のワーク・ライフ・バランス等、女性が住みやすい奈良県にしたいというのが基本的な願い。
- その思いを目標にして、その思いにたどり着くような施策を実行しようということが上手く表現できるように、また、足りないところはこれをもっと強くしないといけないということを、上手くこのプランの中に入れてくれば良いと思う。

また、ご議論を賜る機会もあるので、良い資料で、良いご意見を賜るようお願い申し上げます。